



明倫彙編

郡山文庫
台帳228號
分類



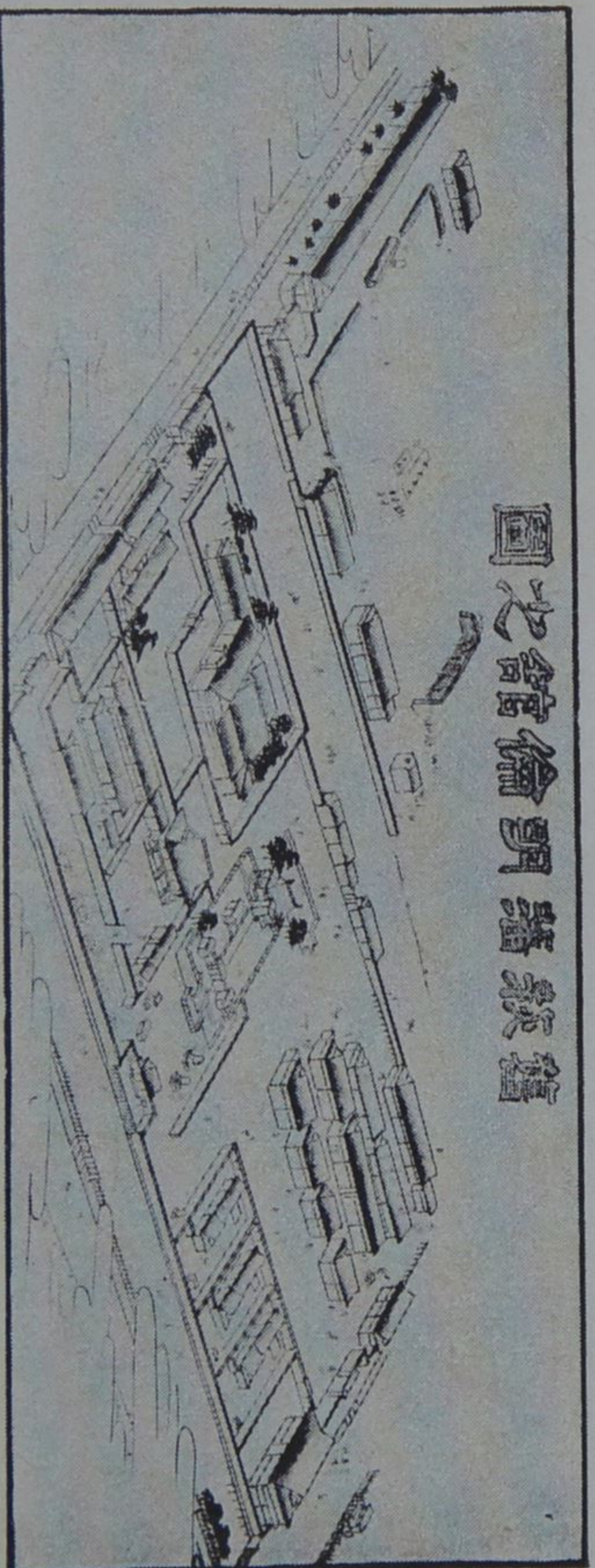
明  
倫  
館  
址



車文山縣  
總局  
限公

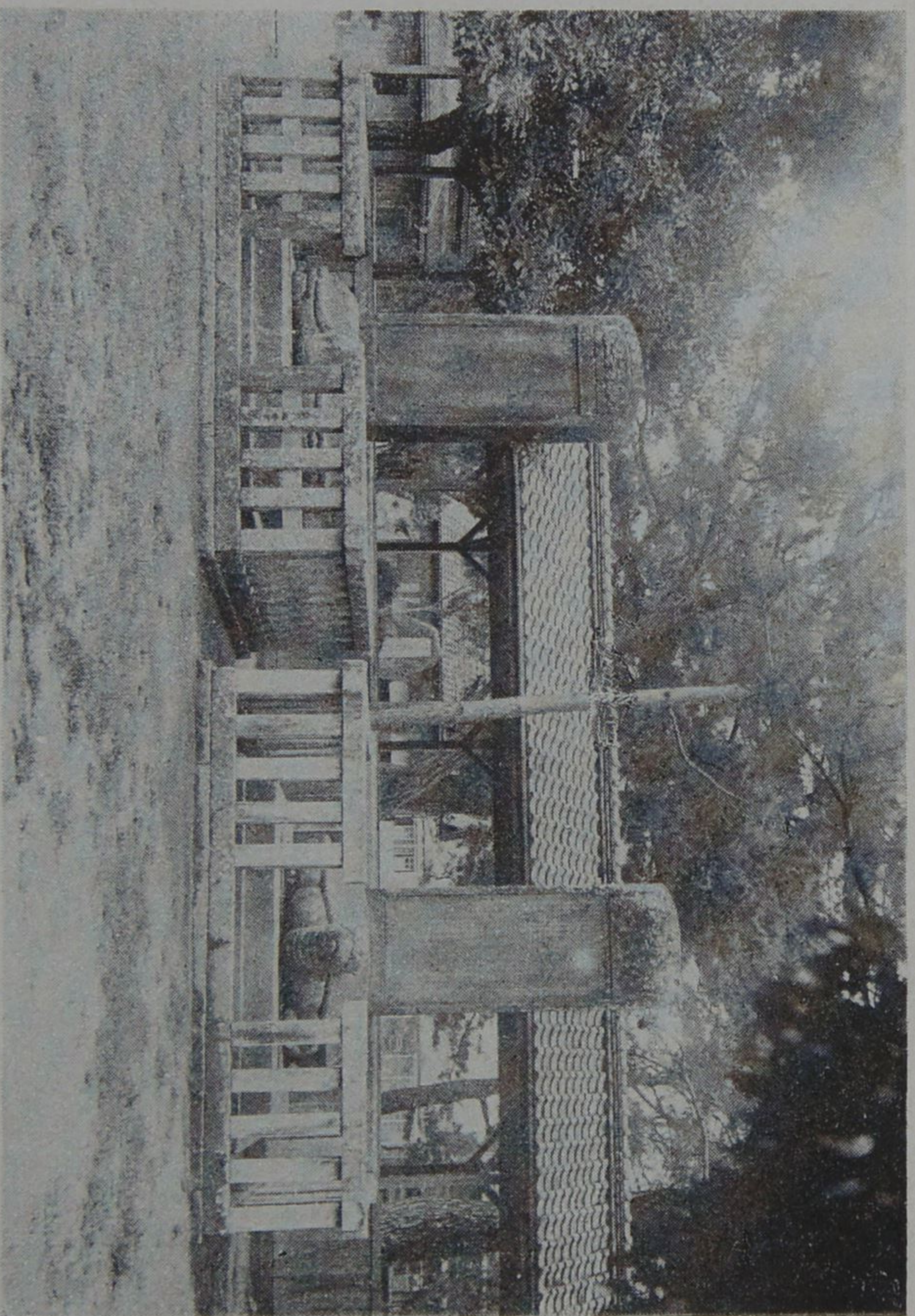
明倫館全景

明倫館は享保四年の嘉永二年に其規模を擴張し、またその  
明倫館全景  
明倫館は享保四年の嘉永二年に其規模を擴張し、またその  
明倫館全景  
明倫館は享保四年の嘉永二年に其規模を擴張し、またその  
明倫館全景



舊款明倫館之圖

向つて左は元文六年の建立にして山縣周南の撰文。  
右は嘉永二年重建の際建てたるものにして山縣大華  
の撰文である。昭和四年史蹟として指定せられた。



明倫館碑



池 練 水

館碑に『廟後鑿池蓄水可以習水騎』とあるはこの池であつて長さ二十二間幅九間當時游泳水騎の用に供したものである。俗に煙硝池ともいふ。昭和四年史蹟として指定せられた。



有 備 館

嘉永年間明倫館重建に際し古館の建物を移築したものであつて他國修業者との劍槍試合に用ひられた。向つて右は槍術。左は劍術の場であり。中央に一室があつて藩公臨場の時の休憩所とせられた。今有備館といふは江戸藩邸内の文武講習所の名を襲用したものである。

# 明倫館址

## はしがき

本冊子は明倫小學校の研究に成れるものであつて、藩學『明倫館』の全貌を明かにせんことをしたものである。然るに結果は其の概要をしるすに過ぎなかつたが、それは紙数の制限上止むを得ない次第である。

表紙の圖案は萩中學校教諭水沼兼雄氏の考案になるものである。

昭和十年三月

萩市役所



# 目次

一、明倫館の創立……………	(一)
二、明倫館の重建……………	(二)
三、明倫館の經營……………	(四)
四、明倫館の教育精神……………	(六)
五、明倫館の機構と其の功果……………	(八)
六、其後の明倫館……………	(一一)
七、現存の遺物……………	(一二)

# 明倫館址

## 一、明倫館の創立

抑も明倫館創立は今を距るこゝ二百十六年、即ち享保四年、時の藩主毛利吉元公によつて行はれたものである。地は堀内に相し、廓する所九百四十坪、聖廟・講堂・書庫・諸生寮・文武稽古場等凡そ子弟として肆ふべきもの悉く備はらざるなく、洵に當時の藩學としては天下稀に見るの一大偉觀であつた。

爾來長藩の文教は日に成り月に進み、後年水戸の弘道館、岡山の閑谷塾を併せて天下の三大學府と稱せられ、俊英叢出の基を定め、回天の大業に參劃の基を作られたこゝは、洵に偉大な業績であつて、二州の人々の永久に忘るべからざる事柄である。

然るに星移り物變り創立以來百三十年、天下の形勢漸く多事となり、教育の事亦規模内容共に擴張更新を要する時となつたので、嘉永二年遂に重建の舉を見るに至つたものである。

## 一、明倫館の重建

藩主忠正公襲封の頃は、長藩の財政は紊亂其の極に達し、官民共に非常な難局に直面したのである。當時藩の借財は實に八萬五千二百五十貫の多額に上つたといふ。之を其の時の米價に換算するに殆んど百八十萬石に相當するものであつて、防長三十六萬石の負債としては容易ならざるものであつた。しかも外船は頻りに近海に出没し、尊王攘夷の議論は鼎の沸くが如く、物情騒然、内外極めて多事多難であつたことは今更言ふまでもないことである。されど如何に多難にして紛々理め難しき雖も、文教須臾も廢すべからず、育英一日も曠うすべからずを敢然として重建の事を遂行せられたる大識見と大英斷とは眞に敬服に堪えない業績である。

即ち時の英傑村田清風翁等を起用して、其の事に當らしめた。殊に清風翁は畢生の大計劃を策して進言する所があつた。参考のため江戸の昌平齋を始め、水戸の弘道館、會津の日新館、伊勢の有造館、其他仙臺・岡山・熊本等當時比較的有名であつた藩齋の學則圖面其他有益なる資料を蒐め、數年に亘つて考究を重ねたものである。弘化三年工を企て、嘉永二年正月落成、

全二月十八日聖廟釋典執行、三月二日諸稽古始を行ひ、茲に新明倫館教育の第一歩を踏み出したのである。

地は萩の中央なる江向に相し、今の明倫小學校、萩商業學校、萩區裁判所の所在地一圓を敷地とし、廣袤方二町、總坪數一萬五千坪、建物二千七百餘坪、其の結構の壯大なることは他藩に其の比を見るこゝが出来ないほどであつた。時の祭酒山縣大華の撰んだ碑文に次の一節がある。曰く

『聖廟中に居り、殿堂巍然、門塾修整、伴水之を環り、結構の壯、輪奐の美、舊に於いて加はるあり。講堂は其の西にあり、庖厨學舍相次ぐ、而して西東は則ち演武の場たり、北は則ち練兵の區たり、小學に堂あり、肄禮に舍あり、天文書算の場、騎射調馬の埒亦盡く備はれり。廟後池を鑿りて水を蓄へ以て水騎を習はすべし。講堂の北別に館を設け、公學に臨んで老を養ひ、士を試むるの所を爲す。而して四外周らすに溝塹を以てし、大門は南にありて方面を正しうす。是に於いて學校の制煥然として大いに備はり、而して講習の士皆以て俛焉として其の力を盡すを得。』

舊館時代には、聖廟・講堂・書庫・諸生寮・庖廚・劍槍舍・射騎埒・兵學禮式天文算術筆道等の稽古場があつた。新館では之を擴張完備するに共に、更に練兵場・醫學所・學校御殿を構築したものである。

聖廟には、孔子の木主、顔莊思孟四配の木主を安置し、周二程張邵朱六氏の名幅を掲げ、聖壇を環りて二房三室あり、之を宜聖殿といふ。

學校御殿は藩主臨校の時、養老試士の場に充て之を濟美堂と稱へた。後、世子元徳公の居館として用ひられた。

講堂は廣さ九十六坪、緒生寮は六坪の室十二、各室に朱子の白鹿洞書院掲示の文を額にして掲げた。書庫は約二十四坪、藏書千九百三十七部、二萬六千九百九十二冊、類によつて十二區に分ち十二支の記號を附して分類整理してあつた。廟後の池は廣さ百六十坪、非常の用水に供し、常時は水軍の教習に用ひたものである。

### 三、明倫館の經營

**經費** 一年間米千四百石と定め、内二百二十石を飯料に充て、千百八十石を金錢に換へて銀六十九貫六百二十匁を得、之を以て諸費用に宛てたもので、何れも藩の特別會計に屬する撫育金より支出したものである。

**職員** 上に總奉行一人國老之に任じ、次に目附二人を置いて諸士の學業を監督し、又總奉行手元役、館御用係があつて事務を執る。教授役には上に學頭一人あり、其の下に教授職・助教講師・武藝師・小學教諭・小學講師・素讀役・都講・舎長等の職員があつたが、其の人員は一定して居ない。其他に教員事務員約三十人が置いてあつた。

**生徒** 居寮通學合はせて數百名、時によつて増減があつた。但し居寮生は定員四十五人で、内藩費生三十人、自費生十五人の定めであつた。

**教科** 漢學・音樂・醫學・天文・地理・算術・筆道・禮式・兵學・射術・馬術・槍術・騎射大砲・柔術・水軍・游泳・銃隊の諸科を課して居た。

毎年正月十二日始業、十一月十日終業とし毎月五、十の日を休日と定めた。試験は春秋之を行ひ、素讀生には經書につきて百字乃至五百字を讀ましめ、上級生には書中

の三四條を講じ且つ問條二條を答へしめ其の成績によつて、高足・日新・専心・遊息・擯斥の名を以て等を設け黜陟を行ひ、拔群の者には賞品を與ふるこゝになつて居た。

釋菜 聖廟の祭儀は之を釋采シイフといふ。春秋二回行ふを恒例とし、春は藩主自ら祭り、秋は學頭をして祭らしむる定めであつた。祭儀中講師は孟子『明倫の章』を講じ、畢つて養老の禮を行ひ、高齢者に宴を賜ひ物を與ふ。祭儀はもこ延喜式其他和漢の古制を參酌して定めたものであつた。

#### 四、明倫館の教育精神

明倫館教育の根本精神は防長傳統の尊王精神であつた。毛利家が其のかみ天穗日命より出で後に大江の音人公が平城天皇の血をひいて居られるやうに家系の上から見ても、毛利家が世々皇室の藩屏シとして重要な家柄であり、而も其の爲し來れる事蹟一シとして尊皇の大義に則らざるはなく、彼の菅公の和魂漢才、楠公の一生を通ずる忠誠は即ち明倫館の教育精神である。之が綱廣公に至つて萬治制法シいふ毛利家の大憲章シ成り、更に吉元公に至り教育施設シして形の

上に具體化したものであり、忠正公の重建はその整備擴充であつて、一貫せる傳統の大精神には寸毫の動搖も見なかつたのである。されば忠正公が明倫館の教官に下された告論の中にも『神州の國體大いに外國革命の風儀シ同じからず。故に萬古一系の天朝を翼戴するこゝ亦異邦自立の主を奉ずるシ大いに異れり。』シいふ一節のあるこゝを見ても、館の教育が常に尊皇の大義に終始して居たこゝが窺はれるのである。幕末多事の時に當り、殊に國際關係の紛糾するや、皇國意識旺盛シして擡頭し、近藤芳樹を用ひて國學講師シし、儒家山根文之允の京師に國學を學び、赤川淡水の水戸會澤正志に學びて歸るあり、之より館の學風益々尊攘を主シし、釋菜シも靖獻遺言・日本外史・日本政記・弘道館記述義・新論・大統歌を讀むこゝが行はれ、宋の樂雷發の烏鳥歌ウツノウタを誦するものが多くなつた。諸生寮には朱子の白鹿洞書院揭示の文 『正シ其義不レ謀シ其利、明シ其道不レ計シ其功。』 を掲げて饗訓シなし、文久の頃には吉田松陰の遺著を讀むこゝを命じ、大いに尊攘の士氣を鼓舞したものである。毎年正月の始業式には、大學の三綱領を講ずる例であつたが、文久三年には之に加へて日本書記の『天祖神勅の章』を講ずる

ここを命ずるに至り、日本精神は彌が上にも高潮せらるゝ、ここ、なつた。

### 五、明倫館の機構と其の功果

**漢學** 當時異學を禁じられて居た關係上朱子學を用ひたれども、要は單なる道學者を造る爲でなく、成徳達材を望み、國家の爲に有爲有能の士を造るを眼目としたのである。

**兵學** 武藝諸家は各其強壁を破りて天下の智識を求め、屢々名士を聘し、或は諸國に遊學して其の長を採つて短を補ひ、虚飾を棄てて實用を主とし、修鍊養氣を重んじ、士風をして元就輝元二公の當時に復歸せんことを努めた。練兵場の設備は從來行はれたる神器陣の操練を行ふに適せしめたものであるが、安政六年神器降を廢し、長崎直傳の西洋兵式を課するここになつた。當時プールを設けて游泳、水騎の練習をしたことは世界に其の例を見出し得ないことであらう。

**洋學** 長藩は既に徳川中葉以降『唐人送り』『長崎聞役』等の便宜を屢々得て相當に西洋文化を移入するここが出来たが、天保十一年南園に醫學所を設置したことは蘭學研究に一大進歩

を招來したのである。明倫館重建と共に南園より館内に移して濟生堂と稱し、翌年南園に復歸し好生館と改稱し、尋いで西洋學所を館内に置いた。安政三年又南園より館内に移して博習堂と稱へた。博習堂は獨り醫學のみならず、語學・砲術・砲臺築造法・兵器製造・法其他洋式の便利なる事物を研究せしめたのである。當時既に反射爐の構築及精鍊・汽船の建造・硝子器の製造・寫眞撮影・種痘の實施・洋式染色・鑛物分析等の行ひ得るに至つたのは悉く洋學研究の賜である。これより士人の洋學を修むるもの漸く其の數を増し、社會文化に貢獻するここ多くなるものがあつた。

**庶民教育** 明倫館講堂の講釋は上格以上の者の聽講を許し、以下の者は館外に敬身堂を設け此所に於いて聽講せしめたものである。敬身堂は天保十三年庶民教育の目的を以て設けた心學講談所であるが、後年館内の小學生増加して學舍狹隘を告ぐるに及び悉く之を敬身堂に移したものである。

上來述ぶるが如く、明倫館の學科課程は和漢洋の全野に亘りて最深最奥の高等教育を施したものであつて、今日の所謂綜合大學である。而も教育の系統より見れば、初等教育中等教育及

び高等専門の教育まで行つたものであることを考へる時、實に其の機構の壯大なる、洵に驚歎すべき一大教育殿堂であつた。更に見逃すべからざるは、藩内教育行政の中樞核心であつたことである。即ち藩内各地に設けられたる郷校、私塾に至るまで悉く明倫館に統轄せられ、總て明倫館の教則を遵奉せしめ、毎月學生勤怠の状況を報告せしめ以て全藩の教育を督勵し、時々館の職員を派し状況を視察して適當の指導を加へ、或は問題を提出して考試を行ひ、或は各所の問條を檢閲する等教育内容の統制にまで手を伸ばしたものである。官立の小中學高等學校大學の教育を一構内にて施し、而も文部省の事務をも兼ねしめたかの感がある。此の故に明倫館の學風は全藩内に波及し、獨り館内より有用の人材を輩出するのみならず、十室の邑亦傑物を出すの勢を成し、彼の征長の厄に逢ふもよく百萬一心の祖訓を體し、長防臣民合議書を懷にし『君臣湊川』を叫んで決死快戰の覺悟を定め、毛利氏勤王の業を成したのである。彼の狹隘にして短期間であつた松下村塾から多くの偉人を輩出したことは至誠熱烈神の如き松陰先生によつて成し遂げられたのであるが、如何に松陰先生も雖もいろはのいの字から教へて二ヶ年半にあの偉大な業績は残されまい。即ち前述の如き完備した教育施設も、旺盛なる教育的雰囲気も

によつて築き上げられたる大殿堂の最後の仕上げが松陰先生の如き靈腕によつて成されたのである。永年に亘つて絶大なる努力を擲つて畫かれた巨龍に活眼を點じたのが松陰先生其の人であるといふべきである。故に嘉永・安政以來或は藩の要路に立ち、或は國事に奔走し、尊皇の大義の爲に身を危難に延し、明治中興の大業に參劃して國士の道を竭したる人々の多數輩出したことは、永年に亘る教育的大努力の當然の結果であつて、其の明倫館生たりし否に係らず皆此の館の學風に薰化せられたるものと謂ふべきである。

## 六、其の後の明倫館

維新の風雲急を告ぐるや、西睡北海の一角を政治的中心地とするは色々の點に不便であつた。忠正公ここに見る所あり。文久三年治所を山口に移さるるに共に、藩學にも若干の變動を見るに至つた。即ち山口郷校を陞して藩塾に準じ、尋いで之を山口明倫館と呼ぶに及び、萩の學館を萩明倫館と改稱し、慶應三年二月萩明倫館廢せられ、兵學科は山口に移り、文學科を存置して文學寮と稱して居たが、明治五年之を萩中學校と改稱するに及び、吉元公創立以來百

五十年の傳統を有する明倫館は全くその影を没したのである。

然し校舎は其後數年間保存せられ、明治五年始めて學制を頒布せらるるや、館の一部を江向小學として用ひ、其後江南小學校、萩陽小學校と名稱の變遷はあつたけれど、何れも明倫館の校舎を繼續使用したものである。然るに明治十八年市内各小學校（當時四小學校三分校あり）を合同して明倫小學校と稱し、地を明倫館の故地に卜して新校舎を建て以て今日に及んだものである。其の間校舎の増築、模様替、經營組織の分合異同等は屢々行はれたけれど、永年に亘る明倫館教育の大精神は依然として繼承せられ、此所に學ぶ兒童の腦裡に脈々波打ち、目もあやに織り成せる美しき國史の成跡は三萬市民の自尊心を刺戟するに大きな底力となつて居るのである。

### 七、現存の遺物

#### 聖賢堂

聖廟の前に觀德門といふ門があつて、其の左右に東塾、西塾といふ建物があつた。

一は釋菜の供物調膳所であり、一は祭官の控所であつた。此の兩者を合して一棟に建て、中に

聖廟に安置してあつたといふ孔子以下四配の木主を藏して居る。

#### 水練池

聖廟の後に池を鑿つて用水に充て、又水騎を練習したもので、現今の所謂プールである。明治九年前原一誠が亂を起した時明倫館を本據とした。會々部下に反逆者があつて、火薬を池に投じて前原黨慘敗の因たらしめたといふので煙硝池ともいふ。

#### 明倫館碑

新舊二碑を存す。一は元文六年山縣周南の撰文、一は嘉永二年山縣大華の撰文、何れも館造立の趣旨・館の結構・館教育の方針をしるしたものである。

右の水練池及び館碑は昭和四年十二月十七日史蹟名勝天然記念物保存法第一條に依り指定せられて居る。

#### 有備館

享保年間創建せる舊明倫館の劍槍道場を移築補修せるものである。始め他國修業劍槍術引請場又は藩主武藝上覽の場所として用ひたが、後には館生の武藝練習場として使用し、

『東稽古場』又は『東長屋』と稱して居た。現今の名稱は天保十二年明倫館附屬教育所として

江戸櫻田藩邸内に建てた『有備館』の名を襲用したものである。

#### 扁額三箇

『明倫館』『容衆』『講堂』の三箇あり。前二者は草場居敬の筆、後者は山縣墨儼



の筆。

石水盤 聖廟の前にあつたもの。

松數十株 嘉永二年重建の際、館の周圍及び水練池の側に植付けたものである。

尚ほ遺物の構外に散在せるものに次の如きものがある。

聖廟建物 市内海潮寺本堂に用ひらる。

木主安置の厨司 全海潮寺に藏す。

廟前萬歳橋 市内指月神社にある。

廟の石欄 全前。

廟前親徳門 本願寺別院御成門に用ひらる。

廟前南門 本願寺別院正門に用ひらる。

聖壇の扁額 『仰止』ミ題す。萩中學校に藏す。

南園 縣立女學校の構内であつて、何等遺物を存せずミ雖も、好生館創設の故地であつて、

醫學の研究藥草の栽培硝子製造寫眞術の研究等諸般の洋學研究及び實驗所の址である。

好生館 新堀好生館は文久元年明倫館内より移轉構築せられたものであつて、今尚ほ其の建物の一部を存す。

現存せる遺物は、右に掲ぐる如く、其の數多からずミ雖も、僅かに残る一本一石にも、將又四周の颯々たる松籟にも、當年の雄圖を追想して、感奮思慕、愛着の念禁じ難く、父祖先輩の偉大なる業績を顧み、崇高なる風格を偲ぶ時、一種言ふべからざる感激ミ矜持ミを覺えるのである。

『終』

昭和十年三月十五日印刷  
昭和十年三月二十日發行

【定價拾錢】

著者  
兼發行者

萩

市役所

責任者

河野

道

下關市西南部町七十八番地

印刷者

泉

菊太郎

下關市東南部町百十五番地

印刷所

泉

菊工場

發行所

萩

市役所



